

6 あおもり親楽プログラムの活用方法

(1) あおもり親楽プログラムの流れ

プログラムの標準的な流れです。実施時間は、およそ60分で設定しています。全体の時間に合わせ、それぞれの活動時間を調整することができます。

時間	学習活動	展開のポイント
10分	学習の約束 アイスブレイク グループ分け	<ul style="list-style-type: none">参加者みんなで学習の約束（下記参照）を確認します。みんなが安心して学習できるようにします。参加者の緊張をほぐし、場の雰囲気をやや和やかにします。話し合い等がしやすい人数でグループを作ります。
40分	ワーク	<ul style="list-style-type: none">エピソード等をもとに、個人やグループでワークを行います。互いに感じたことや経験を話し合い、楽しく学び合います。グループで話し合った意見を全体に紹介します。話し合い等がスムーズに進むよう、進行役がサポートします。
10分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none">参加者の気づきを記入します。みんなで意見を共有しながら学習を深めます。

このプログラムでは、参加する誰もが気をつけることがあります。みんなが楽しく安心して学習できるよう、はじめに学習の約束を確認しましょう。

学習の約束

1 お互いの考えや感じ方を尊重しましょう

ほかの人の意見をしっかり聞き、自分のなかの変化を感じてみましょう。また、ひとりで話し過ぎないように気をつけ、みんなの話す機会を大切にしましょう。

2 学び合いを楽しみましょう

参加者同士が意見や感想を話し合い、みんなで作っていく学習プログラムです。発言は強制ではありません。リラックスして参加し、学び合いを楽しみましょう。

3 プライバシーを守りましょう

ここで知った個人情報（個人名、住まい、学校名等）はもちろんのこと、プライバシーに関わることは絶対にほかの人に話さないでください。プライバシーが守られることで、みんなが安心して参加することができます。

(2) あおもり親楽プログラムの進め方

このプログラムは、学習の「進行役」が進めます。進行役は学習を計画し、実施します。

■ 学習の計画

1 プログラムを選ぶ

誰を対象に、どのようなねらいの学習を実施するのかを検討し、プログラムを選定します。

2 プログラムの展開を工夫する

「手引き(展開例)」には、プログラムの具体的なねらいと展開例、関係資料を掲載しています。展開例は、参加者の状況や関心、人数、使用する場所、時間等に応じてアレンジし、楽しく学習できるように工夫します。

3 学習形態を決める

話し合いやワーク等が効果的に行えるグループの人数の目安は4～6人です。予めグループ分けをしておいたり、アイスブレイクのなかでグループ分けをするなど、グループ分けの仕方を工夫します。

4 実施するスタッフを確保する

進行役はひとりでもできますが、参加者等の状況によっては、複数の進行役で進める方がよい場合もあります。また、受付や資料の準備等をする人がいれば、よりスムーズに進みます。

■ 進行役の役割

進行役は、話し合いや参加者の交流がスムーズに進むよう、参加者の様子を見ながら声がけし、参加者の気づきや学びを助けることが役目です。

進行役は、次のことに気をつけて、学習を実施しましょう。

● 参加者が安心して学習できるような雰囲気をつくる

自信をもってゆっくり話すなど、進行役を信頼してもらえるよう心がけます。ワークには正解がないことや「学習の約束(P30)」を確認し、参加者の不安を解消します。また、参加者みんなが話したり聞いたりできるようにします。

参加者に発言を強要したり、一部の人だけの意見を聞いたりしてはいけません。

● 参加者の主体性を尊重し、自らの気づきを引き出す

ひとりひとりの発言をよく聞き、話し手の思いに焦点を当てたり、要点を整理したりして、参加者の気づきを大切にします。

参加者の発言を批評したり、進行役の意見を押しついたりしてはいけません。

● 流れの調整をする

参加者がワークの手順を理解しているか、時間が足りているかなどを、確かめながら進めます。参加者に合わせた進行を心がけ、流れを調整します。計画どおりに進まないことも予測しておきます。

※進行役の役割の範囲を超える問題については、相談できる関係機関等を紹介しましょう。

(3) あおもり親楽プログラムの使い方

● プログラム

エピソードが書いてあります。参加者が互いに感じたことや経験を話し合う、学習のきっかけにします。

ワークの流れが書いてあります。

直接書き込みすることができます。

1 支援者を対象としたプログラム

プログラム 1-1 誰のための講座だろう？
～参加者が主体的に話し合うためには～


エピソード

小学生の子どもをもつアサコさんは、地域の子育てサークルが主催する家庭教育講座に参加することにしました。初日の今日は、講話のあとにグループワークがあり、同じ年頃の参加者と講話の感想などを話し合っていました。

ところが、グループワークが20分くらい早く終わりました。アサコさんは「せっかくだから、もっと、おしゃべりしたいわ。」とつぶやきました。同じグループの人たちもうなずきました。すると、突然、「時間が少し余りましたので、わたしの経験をお話します。わたしには子どもが・・・」と、主催者のマナミさんがマイクを握り、自分の子育ての体験談をはじめました。

「えー。」アサコさんは、がっかりして周りを見ると、みんなも下を向いています。

マナミさんは、得意げに話し続けています。



ワーク1 エピソードを読んで次のことについて話し合います。
アサコさんや参加者の気持ちを考えてみましょう。

ワーク2 主催者のマナミさんはどのようにすればよかったのでしょうか？

ワーク3 参加者が主体的に関わるためには、どんな方法があるのでしょうか？

ふりかえり どんなことに気づきましたか。

エピソードはそのままコピーして使えます。

書き込み欄はそのままコピーして使えます。部分的に活用することもできます。

● 手引き（展開例）

プログラムの具体的なねらいと展開例が書いてあります。

プログラムを展開するときに押さえるポイントや注意点が書いてあります。

手引き（展開例）

プログラム 1-1 誰のための講座だろう？
～参加者が主体的に話し合うためには～

ねらい 参加者が主体的に関わることの大切さを考える。

プログラム説明 子育てサークル等が講座等を開催する時、支援者側の考えに参加者を導こうとしてしまいがちです。大切なことは、参加者が講座等に主体的に参加することです。ここでは、参加者が主体的に関わるためにはなにが大切かについて取り上げます。

主な対象・時間 対象／家庭教育支援者 時間／60分

展 開 例	学 習 内 容	展 開 の ポ イ ン ト
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の約束 ○ アイスブレイク（P48～49参照） ○ グループ分け ○ 自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の約束（P30）を確かめる。 ・参加者の緊張をほくし、場を和やかにする。 ・グループ内で自己紹介する（1人30秒程度）。
15分	<p>ワーク1</p> <ol style="list-style-type: none"> ① エピソードを読む。 ② アサコさんや参加者の気持ちを記入する。 ③ ②についてグループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アサコさんや参加者がどんな気持ちで講座に参加してきたかに気づけるようにする。
10分	<p>ワーク2</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主催者のマナミさんはどうすればよかったのか記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者のマナミさんが参加者の気持ちに寄り添っていないことに気づけるようにする。
15分	<p>ワーク3</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加者が主体的に関わるためにどんな方法があるか記入し、グループで話し合う。 ② グループの意見を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者は参加者が主体的に関わるための手助けをすることが大切であることに気づけるようにする。 ※P20～24参照
10分	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 気づいたことを記入し、発表し合う。 ○ 資料を参考に、支援者としての心構えなどについて、お互いが確認する。（P20） 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人が発表してもらい共有する。

参加者の状況等に応じて、アレンジして使います。